Ⅲ.診療科の活動

2020 年 4 月～2021 年 3 月

内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
内科部長、副院長、消化器内科科長	忍 哲也
内科副部長、救急・総合内科科長	守谷 能和
副院長	福庭 勲
副院長	小野 未来代
内科診療部長	辻 忠男
内科診療部長、糖尿病科科長	村上 哲雄
救急・総合内科部長	後藤 慶太郎
循環器科科長	金子 史
呼吸器内科科長	原澤 慶次
透析科科長、病棟医長	肥田 徹
消化器科医長・病棟医長	田代 興一
病棟医長	山田 歩美
技術部長	市川 篤
医員	久志本 舞衣子
	下川 郡明
内科専攻医	白藤 拓也
	開原 英範
	山本 茂輝
総合内科専攻医	松村 憲浩
	吉本 尚史
川口診療所・所長	内山 隆久
おおみや診療所・所長	山田 晃務

※他科と重複している場合があります

2. 初期研修医

2019年卒 (8名)	黒須 友理香、古関 匠、鷹尾 純、瀧井 未来、田中 栞、外川 加奈子、富山 桃子、橋本 弥生
2020年卒 (8名)	揚野 佳太、後藤 昌大、小山 麻実、清水 愛、鈴木 佳那子、瀧田 郁洋、菱沼 智紀、渡邉 稔

3. 概要、特徴、特色

(1)地域医療の最前線で、いかなる患者様にも対応できる総合力を持つ内科でありたいと考えて診療を行っています。

(2)初期研修医は2つの内科病棟(C2病棟、D4病棟)のいずれかに所属して研修を開始します。内科は、初期研修医に基本的な診療スタイルを身につけさせる役割を担っています。

(3)2020年8月から、内科C5病棟を新型コロナ専用病棟として患者様の受入を行いました。

4. 実績

(1)外来科別患者数　　単位:人

	実患者数	患者のべ数
予約内科	1,338	5,715
急患内科	9,173	19,154
循環器内科	1,776	8,403
消化器内科	3,314	11,161
糖尿病内科	2,224	12,902
呼吸器内科	1,214	6,255
腎臓内科(透析)	300	1,656
血液内科	236	1,194
神経内科	446	1,801

(2)入院医療

	C2病棟 (Ⅳ-5頁参照)	D4病棟 (Ⅳ-11頁参照)
病床数	60床	46床 HCU4床

5. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学会・研究会等の発表(Ⅵ-1頁参照)

演題名
同時期家族内感染を疑う *Streptococcus dysgalactiae* 感染症の1例
Capnocytophaga canimorsus によるネコ咬傷後敗血症・播種性血管内凝固症候群をきたした1例
嫌気性菌を起因菌とする小児化膿性肘関節炎をきたした一例
高度肝十二指腸間膜リンパ節移転を伴う胃がんに対して化学療法後に拡大郭清を伴う医切除を行った一例
Tolosa-Hunt症候群の一例
国内発症のセフトリアキソン耐性非チフス性サルモネラ菌血症の1例

■診療実績(診断群分類6桁別、2020年退院患者) 168傷病中上位80%　　*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療	構成比%	累積%
060100	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)	438	69.8	2.0	1	145	412	20		418	11.5%	11.5%
060360	慢性膵炎(膵嚢胞を含む。)	212	60.8	9.8	1	178	194	6		206	5.6%	17.1%
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	209	71.5	8.8	13	162	154			209	5.5%	22.6%
060340	胆管(肝内外)結石、胆管炎	166	76.9	11.1	48	91	127	1		165	4.4%	26.9%
040080	肺炎等	157	77.7	14.5	67	68	4			157	4.1%	31.0%
110310	腎臓または尿路の感染症	156	77.6	12.8	83	57	3			156	4.1%	35.1%
050130	心不全	138	79.2	15.3	61	69	0			138	3.6%	38.8%
010060	脳梗塞	131	75.1	30.2	51	53	2			131	3.4%	42.2%
040081	誤嚥性肺炎	128	83.6	17.5	82	70	5			128	3.4%	45.6%
040040	肺の悪性腫瘍	105	76.0	9.6	12	51	3	29	41	35	2.8%	48.3%
180030	その他の感染症(真菌を除く)	98	60.1	12.1	14	37	0			98	2.6%	50.9%
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	88	71.0	8.3	5	44	23	37	12	39	2.3%	53.2%
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	87	70.7	3.4	1	52	10	73		14	2.3%	55.5%
060350	急性膵炎	68	54.4	11.5	15	37	36			68	1.8%	57.3%
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	62	72.6	7.2	16	24	14			62	1.6%	58.9%
060020	胃の悪性腫瘍	54	76.4	10.1	3	13	35	6	1	47	1.4%	60.3%
030250	睡眠時無呼吸	47	55.2	2.0	0	37	0	47			1.2%	61.6%
030400	前庭機能障害	46	72.0	4.7	35	9	0			46	1.2%	62.8%
040110	間質性肺炎	46	72.4	17.7	9	17	2	4		42	1.2%	64.0%
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良性疾患)	45	71.4	9.1	21	20	6	1	1	43	1.2%	65.2%
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔を伴わないもの)	43	72.4	12.4	27	19	20			43	1.1%	66.3%
060035	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍	39	70.8	4.5	2	16	23	7	3	29	1.0%	67.3%
040120	慢性閉塞性肺疾患	35	79.2	14.7	16	15	1			35	0.9%	68.2%
080010	膿皮症	35	75.8	14.0	16	14	4			35	0.9%	69.1%
180040	手術・処置等の合併症	35	76.8	13.4	18	20	2			35	0.9%	70.1%
10007x	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く)	34	63.7	12.2	1	20	1			34	0.9%	71.0%

*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療	構成比%	累積%
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)	34	76.7	11.9	2	16	22	1	3	30	0.9%	71.8%
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	31	76.5	8.3	11	12	1			31	0.8%	72.7%
060280	アルコール性肝障害	31	56.8	13.7	11	10	3			31	0.8%	73.5%
060300	肝硬変(胆汁性肝硬変を含む。)	31	68.8	11.0	10	20	12	1		30	0.8%	74.3%
060190	虚血性腸炎	30	69.8	7.1	11	6	0			30	0.8%	75.1%
180010	敗血症	26	79.6	15.4	20	11	3			26	0.7%	75.8%
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	26	79.0	12.5	4	7	16		4	22	0.7%	76.4%
130030	非ホジキンリンパ腫	25	80.9	10.2	6	14	2	1	9	15	0.7%	77.1%
040100	喘息	23	65.0	11.0	7	7	0			23	0.6%	77.7%
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	23	74.6	27.0	9	15	7		1	22	0.6%	78.3%
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	22	71.0	10.5	17	2	1			22	0.6%	78.9%
110290	急性腎不全	22	72.8	17.6	14	9	1			22	0.6%	79.5%
010040	非外傷性頭蓋内血腫	21	74.2	29.6	11	7	1		1	20	0.6%	80.0%
	その他の傷病	761			273	350	93	20	30	711	20.0%	100.0%
計		3,808	72.9	15.3	1,024	1,824	1,243	254	106	3,448	100%	

循環器内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
副院長	福庭　勲
科長	金子　史
秩父生協病院・院長	山田　昌樹
非常勤	6名

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

当院では高血圧症・虚血性心疾患（狭心症など）・不整脈・心不全・弁膜症などを中心に循環器疾患全般にわたって診療を行っています。

外来では心電図検査・胸部レントゲン検査・心臓超音波検査・ホルター心電図検査・トレッドミル運動負荷心電図検査、心臓CT検査などを行い、心臓病の早期発見に努めています。

狭心症などの虚血性心疾患が疑われる場合は、診断の精度を高めるために、心臓カテーテル検査（通常2泊3日入院）を行います。ほとんどの症例で体に負担が少ない手首からの心臓カテーテル検査を行っています。また、入院せずに外来で精密検査を行うことのできるように、心臓冠動脈CT検査を導入しています。

心臓カテーテル検査などで冠動脈の狭窄が発見された場合は心臓カテーテル治療（経皮的冠動脈ステント留置術など）を行っています。バルーンを用いて血管の狭窄を拡張したり、金属でできた金網（ステント）を植え込む治療を行います。心臓カテーテル検査や治療では、クリニカルパスを用いて、安全な検査・治療に努めています。

不整脈では、ペースメーカー手術も行っています。退院後はペースメーカー外来（予約制）で定期的に術後の経過をみせていただいています。

心臓病の予防も重要な分野として、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリなどを含めて取り組んでいます。

また、心臓病を悪化させる原因として喫煙や睡眠時無呼吸症候群などがあり、禁煙外来や息いき外来（睡眠時無呼吸症候群）とも連携をとって、診療を行っています。

3. 診療実績

(1)外来診療

①主たる疾患：高血圧・心不全・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症・閉塞性動脈硬化症など

②手術適応症例は心臓外科外来（非常勤）にて診療

③ペースメーカー外来

(2)治療

①経皮的冠動脈ステント留置術10例

・病変部位（重複含む）：LAD5例、LCX2例、RCA2例、

・graft1例

②下肢血管拡張術7例

・病変部位（重複含む）：CIA2例、EIA1例、CTO病変1例

③ペースメーカー移植術14例

・不整脈：完全房室ブロック6例（DDD5例、VVI1例）、

2度房室ブロック1例（DDD1例）

洞不全症候群3例（VVⅠ1例、DDD2例）

心房細動4例（VVI4例）

④ペースメーカー交換術5例

■診療実績(診断群分類6桁別、2020年退院患者)　　*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療
050030	急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞	8	83.0	5.8	6	2	0			8
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	87	70.7	3.4	1	52	10	73		14
050060	心筋症(拡張型心筋症を含む。)	2	86.5	16.5	1	1	0			2
050070	頻脈性不整脈	10	73.8	8.3	1	5	2			10
050080	弁膜症(連合弁膜症を含む。)	12	82.3	10.3	1	10	0	2		10
050090	心内膜炎	9	71.7	28.3	5	4	0			9
050130	心不全	138	79.2	15.3	61	69	0			138
050140	高血圧性疾患	4	68.0	13.5	2	2	0			4
050170	閉塞性動脈疾患	20	72.9	7.5	1	8	6	9		11
050180	静脈・リンパ管疾患	10	76.6	13.9	6	5	0			10
050190	肺塞栓症	5	79.2	13.4	3	2	0			5
050200	循環器疾患(その他)	4	77.5	13.5	2	4	0			4
050210	徐脈性不整脈	16	80.1	10.6	3	9	13		1	15
	計	325	76.2	11.0	93	173	31	84	1	240

■検査及び処置名

	件数
経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	10
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	11
ペースメーカー交換術	6
四肢の血管拡張術・血栓除去術	6
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	110
下大静脈フィルター留置術	0
心臓カテーテル検査	119
UCG	3,318
ホルター心電図	700
トレッドミル	80
経食道エコー	8
心臓CT	108
体内ペーシング	13
体外ペーシング	6
PCI(IVUS)	11
心嚢穿刺	1

呼吸器内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
科長	原澤　慶次
技術部長	市川　篤
医員	草野　賢次
熊谷生協病院・副院長	宮岡　啓介
非常勤	2名

※他科と重複している場合があります

2. 診療実績

(1)外来診療

実患者数	のべ患者数
1,214人	6,255人

(2)化学療法患者数　32名

(3)処置・検査

	件数
気管切開術	3
新規在宅人工呼吸管理	14
気管支鏡検査	97
在宅酸素療法新規導入	115
胸腔穿刺	62
局麻下胸腔鏡	2

(4)呼吸器医療チーム(Ⅴ-30頁参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学会・研究会等の発表(Ⅵ-1頁参照)

演題名
肺多形癌術語に膿胸，術後再発を発症した一例
加湿器による過敏性肺臓炎の一例

■診療実績(診断群分類6桁別、2020年退院患者)　　*医科点数表Ｋコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療
040040	肺の悪性腫瘍	105	76.0	9.6	12	51	3	29	41	35
040050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	5	72.8	25.6	2	2	0			5
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	4	68.3	8.5	3	1	0			4
040080	肺炎等	157	77.7	14.5	67	68	4			157
040081	誤嚥性肺炎	128	83.6	17.5	82	70	5			128
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他)	5	79.0	25.0	3	0	0			5
040100	喘息	23	65.0	11.0	7	7	0			23
040110	間質性肺炎	46	72.4	17.7	9	17	2	4		42
040120	慢性閉塞性肺疾患	35	79.2	14.7	16	15	1			35
040130	呼吸不全(その他)	5	84.4	15.2	3	3	0			5
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	23	74.6	27.0	9	15	7		1	22
040151	呼吸器のアスペルギルス症	2	68.0	17.5	1	1	1			2
040160	呼吸器の結核	8	79.5	13.6	2	4	0			8
040170	抗酸菌関連疾患(肺結核以外)	3	71.3	30.0	0	1	1			3
040190	胸水、胸膜の疾患(その他)	13	79.8	15.7	2	12	0	1		12
040200	気胸	11	74.0	21.8	2	6	1			11
040210	気管支拡張症	4	87.5	12.8	2	3	1			4
040220	横隔膜腫瘍・横隔膜疾患(新生児を含む。)	2	85.0	9.0	1	0	0			2
040240	肺循環疾患	3	82.3	9.0	1	3	0			3
040250	急性呼吸窮＜促＞迫症候群	1	80.0	8.0	1	0	0			1
040310	その他の呼吸器の障害	4	80.5	14.0	2	1	1			4
計		587	77.77	15.2	227	280	27	34	42	511

消化器内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
院長	増田 剛
院長補佐	高石 光雄
副院長	小野 未来代
副院長、内科部長、消化器内科科長	忍 哲也
内科診療部長	辻 忠男
内科副部長、救急・総合内科科長	守谷 能和
消化器内科医長、病棟医長	田代 興一
医員	大石 克巳
	孫 国東

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

(1)地域に密着した急性期病院の消化器内科としての役割を果たすべく診療に当たっています。

(2)1次2次を中心とした救急車搬入台数は年間3,600件に及び、消化管出血や黄疸・胆管炎の患者様も数多く来院されるため、救急医療における消化器内科医の役割は大きいです。

(3)上下部消化管内視鏡検査、内視鏡的胆膵管造影および関連処置、超音波内視鏡検査、治療内視鏡を行っています。従来の大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)に加えて上部下部早期癌に対する粘膜下層剥離術(ESD)の件数も増加しています。緊急胆道ドレナージも積極的に行っています。膵石治療の経験豊富な辻忠男医師の指導の下、慢性膵炎の診療実績は日本屈指となっております。

(4)消化器専門外来では炎症性腸疾患、慢性肝炎・肝硬変、肝細胞癌などの慢性期管理を行っています。B型・C型慢性肝炎への経口抗ウイルス治療の件数や、炎症性腸疾患へのバイオ製剤投与実績も増加しています。

(5)医局が同一である強みを活かして外科と緊密に連携を取り、必要な場合はスムースに手術まで繋げています。

(6)癌化学療法を受ける患者様も年々増加しており、キャンサーボードを行って方針を検討しています。

3. 診療実績

(1)検査・処置

	件数
上部消化管内視鏡検査	7,269
上部(悪性)ESD	24
上部(悪性)EMR	7
上部(良性)EMR	1
下部消化管内視鏡検査	1,855
下部(悪性)ESD	3
下部(悪性)EMR	7
下部(良性)EMR	448
胆道系検査・処置	560
PEG交換	62
PTEG 交換	5
PEG造設	21
腹部アンギオ	4
TAE	27
TAI	6
EIS	5
EVL	5
止血術	21
食道ステント	12
食道拡張	2
肝生検・その他の生検	8
吻合部拡張術	20
穿刺(膿瘍・胆嚢)	64
超音波内視鏡検査(上部・下部)	56
胆道ESWL	1
膵石ESWL(一連)	185 (実施回数641)

B型肝炎(核酸アナログ治療)	0
C型慢性肝炎(経口治療)	14

(2)消化器内科医療チーム(V-30頁参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学会・研究会等の発表(VI-1頁参照)

演題名
膵管不完全癒合症(IPD:incomplete pan-creas divisum)の37例 －MRCP診断と副乳頭経由の内視鏡治療の有効性について－

(2)著作・論文、寄稿等(VI-8頁参照)

題名
A Case Report-Endoscopic Treatments of 47 Incomplete Pancreatic Divisum(IPD) Cases in our Hospital-Special Emphasis on our New Procedures:Rendezvous Pre-Cut Method and Reverse Balloon Dilation Method

■診療実績(診断群分類6桁別、2020年退院患者)　　*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療
060020	胃の悪性腫瘍	54	76.4	10.1	3	13	35	6	1	47
060030	小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	3	82.0	11.3	0	2	0		1	2
060035	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍	39	70.8	4.5	2	16	23	7	3	29
060040	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	8	71.1	9.3	4	1	3		1	7
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)	34	76.7	11.9	2	16	22	1	3	30
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	26	79.0	12.5	4	7	16		4	22
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	88	71.0	8.3	5	44	23	37	12	39
060080	食道の良性腫瘍	1	44.0	1.0	0	1	0	1		
060090	胃の良性腫瘍	1	86.0	8.0	0	0	1			1
060100	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)	438	69.8	2.0	1	145	412	20		418
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	62	72.6	7.2	16	24	14			62
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良性疾患)	45	71.4	9.1	21	20	6	1	1	43
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔を伴わないもの)	43	72.4	12.4	27	19	20			43
060150	虫垂炎	2	70.5	33.5	0	0	1			2
060180	クローン病等	2	85.0	26.5	2	2	2			2
060185	潰瘍性大腸炎	9	58.8	13.3	0	4	0			9
060190	虚血性腸炎	30	69.8	7.1	11	6	0			30
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	31	76.5	8.3	11	12	1			31
060241	痔核	3	75.7	8.3	2	3	0			3
060270	劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	6	62.3	12.0	2	4	0			6
060280	アルコール性肝障害	31	56.8	13.7	11	10	3			31
060290	慢性肝炎(慢性C型肝炎を除く。)	3	74.7	16.7	0	2	0	1		2
060295	慢性C型肝炎	2	70.0	11.0	0	2	0			2
060300	肝硬変(胆汁性肝硬変を含む。)	31	68.8	11.0	10	20	12	1		30
060310	肝膿瘍(細菌性・寄生虫性疾患を含む。)	9	70.2	25.4	3	7	4			9
060320	肝嚢胞	9	75.2	7.0	1	3	5			9
060330	胆嚢疾患(胆嚢結石など)	1	23.0	7.0	0	0	1			1
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	15	70.3	19.3	6	9	10			15
060340	胆管(肝内外)結石、胆管炎	166	76.9	11.1	48	91	127	1		165
060350	急性膵炎	68	54.4	11.5	15	37	36			68
060360	慢性膵炎(膵嚢胞を含む。)	212	60.8	9.8	1	178	194	6		206
060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍(女性器臓器を除く。)	2	74.0	10.5	1	2	0			2
060380	ウィルス性腸炎	16	46.3	5.0	2	3	0			16
060390	細菌性腸炎	15	41.3	7.5	6	3	0			15
060391	偽膜性腸炎	4	84.0	15.5	2	1	0			4
060570	その他の消化管の障害	4	52.5	6.5	0	1	2			4
計		1,513	68.8	7.8	219	708	973	82	26	1,405

糖尿病内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
内科診療部長、科長	村上 哲雄
医長	島村 裕子
医員	高橋 きよ子 坂下 杏奈 川合 汐里 肥田 徹
さいわい診療所・所長	関口 由希公
非常勤	1名

※他科と重複している場合があります

糖尿病学会認定研修指導医 3名
糖尿病学会専門医 5名
院内CDEJ(Certified Diabetes Educator of Japan) 13名
日本内科学会総合内科専門医・指導医 1名
日本腎臓学会腎臓専門医 1名
日本透析学会透析専門医 1名

2. 概要、特徴、特色

糖尿病領域を中心とした専門的診療を行っています。1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病を含め、各種病態患者の診療を行い、健康寿命の延伸を治療目標にしています。糖尿病を併発している外科領域の患者の血糖コントロールについても、連携をしています。他の医療機関との連携もとって、紹介患者の診療にあたっています。

患者会活動も行っており、糖尿病教室、糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行っており、コメディカルスタッフと協同して患者教育にも努めています。

3. 診療実績

(1)外来診療(患者数2020年11,887人)

①糖尿病外来を予約外来として行っており、初診外来で他の医療機関からの紹介患者、および院内からの依頼患者の診療にあたっています。また、妊娠糖尿病患者、糖尿病合併妊娠の患者の管理も行っています。

②糖尿病教育、糖尿病教室も含めての、“はじめ外来”を行っており、診察も並行して行い、合併症の評価もしながら指導しています。また、はじめ外来ではカンバセーションマップ(会話のための地図)を用いての患者教育、栄養指導、薬の指導も行っています。

③)インスリン導入は外来で行うことが多く、糖尿病外来でのインスリン使用患者数は年間905人(うち75歳以上287人)でした。また、インスリン注射の手技の再チェックを必要時行っています。

④4)GLP-1注射薬(ビテュリオン、ビクトーザ、リキスミア、バイエッタ、トルリシティ)も導入しています。

⑤CSII(持続皮下インスリン注入療法)も行っています。

⑥CGMS(持続血糖モニタリングシステム)も血糖日内変動を詳細に把握できる点で優れており、入院、外来で施行しています。

⑦フットケアも実施しており、足の管理、足病変の早期発見に努めています。

⑧糖尿病透析予防指導管理を行い、糖尿病腎症進展の防止に努めています。2012年10月より開始して、診察、看護指導、栄養指導を包括的に行い、2020年では128名指導しました。

⑨)糖尿病患者会、および日本糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行って啓発を行っています。

(2)病棟診療

①糖尿病コントロール入院にて食事療法、薬物療法、運動療法を含めて教育も行い、46名がコントロールを行いました。

(3)糖尿病内科チーム(V-29頁参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)教育

①糖尿病カンファレンス(毎週1回)
医師、コメディカルスタッフで行っており、2020年の症例数は69人。患者の日常生活環境、問題点などについて検討し、指導のポイントなどについて討論を行い、患者のQOL向上に努めています。

②糖尿病事務局会議(毎月1回)
新しい情報の検討、診療業務の改善、向上に努めています。

③第55回 糖尿病学の進歩に参加

(2)研究

①糖尿病合併症進展因子についての検討

②糖尿病腎症の進展予防に対する、新しい糖尿病治療薬の効果についての検討

(3)学会・研究会等の発表(VI-1頁参照)

演題名
当院における周術期血糖プロトコルの安全性および有効性の検討
当院糖尿病外来に通院した悪性腫瘍発症例の検討

腎臓内科（透析）

1. 医師体制

役職名等	氏名
科長、病棟医長	肥田　徹
糖尿病内科医長	島村　裕子
非常勤医	4名

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

(1) 腎臓内科では、主に慢性腎臓病の診断、保存期治療を実施しています。

(2) 腎臓内科、及び透析科では、急性期治療として緊急透析、持続緩徐式血液浄化、免疫吸着療法等を実施し救命治療に従事しています。また他院に通院している透析患者の急性期治療中の維持透析、また周術期の透析管理を実施しています。

(3) 当院では、末期腎不全患者の透析導入施設としての役割があり、安全に透析導入し、維持透析クリニックへ紹介しています。

3. 診療実績

(1) 患者数

		実人数	延べ人数
腎臓内科	外来	300人	1,656人
透析	外来		8,983人
	入院		1,848人

(2) 手術・透析等

内シャント造設件数		61件
経皮的シャント拡張術・血栓除去術		122件
維持透析導入患者数		44件
維持透析件数		10,831件
急性血液浄化	人工腎臓	22件
	持続緩徐式血液浄化	7件
	エンドトキシン吸着	3件
	血球成分除去療法:	11件
	腹水濾過濃縮情静注法	3件
	単純血漿交換	2件
	その他の血液浄化法	10件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 著作・論文、寄稿等（Ⅵ－8参照）

題名
長期留置カテーテル留置法の適応と長期ケア

■診療実績（診断群分類6桁別、2020年退院患者）　　*医科点数表Ｋコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	診断検査	その他の加療
110260	ネフローゼ症候群	2	74.5	11.0	0	0	0		2
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	209	71.5	8.8	13	162	154		209
110290	急性腎不全	22	72.8	17.6	14	9	1		22
110310	腎臓または尿路の感染症	156	77.6	12.8	83	57	3		156
110430	腎動脈塞栓症	1	60	5	0	0	0		1
計		390	71.3	11.0	110	228	158	0	390

緩和ケア内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
病棟医長	雪田 慎二
医員	河野 友絵
非常勤	有田 圭介
	佐野 広美

※他科と重複している場合があります

2. 診療科の特徴

緩和ケア内科は以下3つの診療機能で構成されています。

(1)緩和ケア病棟

入院経路は①当院でがん治療を受けていた患者が入院中に転科、あるいは外来から入院、②他院からの転院、③地域の在宅医に訪問診療を受けていた患者の入院、の3つがあります。①については各科の先生方が積極的に緩和ケア病棟を利用していただけるように、入院の説明と同意書は主治医にお任せしています。②については空床状況に応じて臨機応変に対応しています。③については、多くの場合が緊急入院となりますが、夜間や休日も含め受け入れ体制を整えています。また、一度入院しても、ご希望があれば再度ご自宅に戻れるように積極的な退院支援により、在宅医との双方向連携を高め、地域との交流を深めています。

(2)緩和ケアチーム

多職種で構成され、現場で苦慮している患者の全人的苦痛対し、各職種の専門性を活かしながらチームとして治療やケアの実践・助言を行います。また、院内の緩和ケア水準の維持向上に努める活動もしています。

(3)緩和ケア外来

積極的抗がん治療は終了しているが日常生活は概ね自立している患者の緩和ケア診療として、心身の症状マネジメントと、適切なタイミングでの在宅医療への切り替えなどを行います。

3. 活動と診療実績

(1)緩和ケア病棟

今年度は4月より6月まで新型コロナウィルス感染症の影響で病棟編成が変更となり、緩和ケア診療を休止せざるを得ない時期がありました。6月の再開後も厳しい面会制限は続いており、命の終わりを前にご家族と面会できないという環境から入院を選択しない患者も増えています。このような社会環境において緩和ケア病棟の役割として何ができるのかを検討し、地域連携をさらに高め、よりタイムリーな患者の受け入れ、院内患者の転床促進などを次年度の課題として、病床稼働を高めていくことを計画しています。(C4病棟看護科Ⅳ-8頁参照)

(2)緩和ケアチーム

チーム活動も新型コロナウィルス感染症の感染防止対策から、職種を制限し、病棟ラウンドも制限されるなかでの活動となりました。次年度は緩和ケア診療加算の算定や、タイムリーな相談対応などを課題として、院内での認知度を高めていけるように計画しています。(緩和ケアチームⅤ-28頁参照)

(3)緩和ケア外来

対象患者が限られることから、週1日1単位の外来枠での稼働です。少しでも早い段階から緩和ケアとの接点を作っていくことで患者のQOLを改善し、同時に、がん診療にあたる先生方のご負担を軽減できることをアピールしていくことが次年度の課題です。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(Ⅵ-1頁参照)

演題名
緩和ケア虎の巻

(2)講演会活動等(Ⅵ-7頁参照)

講演名
川口市医師会学術講演会 特別講演 「新しい睡眠薬」(座長)

在宅医療

1. 医師体制

役職名等	氏名
リハビリテーション科診療部長	稲村　充則
非常勤	有田　圭介

※他科と重複している場合があります

2. 診療科の特徴

埼玉協同病院は開設以来40年以上、民医連の歴史を受け継ぎ、在宅医療を行ってきました。介護保険が始まった2000年頃は当院の在宅患者数は240人程度となっています。厚生労働省が医療機能分化のために2006年に在宅療養支援診療所、2008年に在宅療養支援病院（200床以下）の制度を作りました。当時、この地域で、往診／訪問診療を定期的に行う医療機関は皆無に近い状態でした。診療報酬上の制度が出来てもなかなか増えませんでした。

この移行期に、病院としては在宅医療部門をそのまま残し、それまでの患者さんに加え、経済的・社会的に困難な方や最期を住み慣れた場所で過ごしたいという方への訪問を継続することにしました。全国をみわたしても、この規模で院内に在宅医療部門をもつところはごく少数と思います（平成年間までは天理よろず相談所病院は700床規模で院内に在宅医療部門を持っていました）。

当院としては地域医療の中での連携を重視し、次第に増えてきた地域の在宅療養支援診療所・支援病院と連携し、多くの患者さんを紹介し、在宅療養を行う患者・家族への支援を行っています。当院の患者数は当然ながら年々減少しています。

がん患者さんについては当院の緩和ケア病棟の役割（症状コントロール、在宅療養の支援）を発揮しながら、総合サポートセンターを中心に、他院に紹介した患者さんを地域の中で支援しています。

在宅療養の患者構成は多数の疾患が背景にあります。現在は大きくがん、非がんに分け対応します。非がんの中には脳血管障害、認知症、呼吸器／循環器疾患、神経難病などが含まれ，人生の最終段階の支援と緩和ケアを行います。また、急性増悪時には病院のベッドを利用し、緊急対応を行い、リセットして在宅療養を継続支援します。

「簡単に看取りと言わないで」：「看取り」が近いということで新たに導入になる方がいます。看取りという言葉が一人歩きします。しかし、在宅療養の中で回復し元気に何年か過ごされる方がいます。自宅という環境の中では、きちんと対応することで不思議な力が発揮されるのです。

3. 活動と診療実績

(1)在宅管理数　52人/月平均

(2)新規在宅管理数　30人/年

（がん患者13人、非がん患者17人）

(3)在宅医療と看取り

		入院死亡	在宅死亡
死亡22人	がん　13人	7人	6人
	非がん　9人	4人	5人

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)往診だよりへの執筆

4月号	新型コロナにうつらない、うつさない
5月号	治る認知症？・・慢性硬膜下血腫について
6月号	脳卒中（脳血管障害）とは：」死因の第 4 位、要介護要員の第１位
7月号	今年の熱中症対策～新型コロナウイルス感染症の予防と一緒に取り組む
8月号	核兵器のない世界と戦争のない世界を～平和はみんなでつくってゆくもの～新型コロナウイルス感染症パンデミックを乗り越える
9月号	「敬老の日」の月にあたり、新型コロナ禍の中で思うこと/旧沢内村（現岩手県西和賀町）を知っていますか
10月号	摂食・嚥下障害について
11月号	摂食・嚥下障害②
12月号	高齢社会では誤嚥性肺炎の予防と治療が重要です。
2月号	新型コロナ感染症の典型的な経過/感染症法の改正に関する緊急声明（日本医学会連合）から
3月号	ヒートショックについて

(2)学会・研究会等の発表（Ⅵ-1頁参照）

演題名
リー・フラウメニ症候群とされた肺癌患者の終末期在宅療養について

5. 次年度に向けて

長く当院にかかりつけで通院困難となり、自宅療養を希望される方、社会的・経済的にも困難がある方、入院から自宅療養に切り替えとなる方で、最期が近い方の支援を行っていきます。人生の最終盤を自宅で過ごしたい方などの在宅療養を支援するためです。

今後、地域包括ケア病床を新設した第2病院（仮称）が開始された際には、在宅療養支援病院として急性期、地域包括ケア、老人保健施設、訪問看護、居宅と地域を総合的に支える活動の中で在宅医療・訪問診療は質量ともに大きく発展していくものと考えます。

救急・総合内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	後藤 慶太郎
内科副部長、科長	守谷 能和
初期研修医	16名

※他科と重複している場合があります

2. 救急搬入

救急搬入患者数	3,422人
(要請数)	6,225人
(受入率)	55%
(入院数)	1,253人

※詳しくはⅡ-40頁参照

リハビリテーション科

1. 医師体制

役職名	氏名
部長	稲村 充則
副部長	野口 周一

※他科と重複している場合があります

被ばく相談外来

1. 医師体制

役職名等	氏名
精神科部長	雪田 慎二

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

被ばく相談外来は、月1回、完全予約制で行っています。広島・長崎の原爆被爆者、福島第1原発事故被害者、原発労働者などの健康相談を実施しています。

また、福島第1原発事故に関連して、福島県双葉町の住民を対象に甲状腺エコー検査の集団検診を毎年、継続的に行っています。2020年度は2021年2月7日(日)に実施し、32名が受診されました。

禁煙外来

1. 医師体制

役職名等	氏名
健康増進センター長	小池 昭夫
内科技術部長	市川 篤

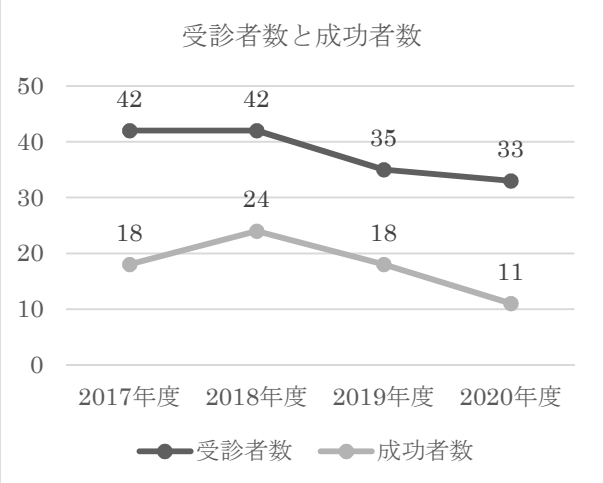
※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

タバコを吸い続けてやめられない状態は、ニコチン依存症と診断され、治療が必要です。本人の能動喫煙以外に、周囲の受動喫煙による健康障害(発がん)の防止が注目されています。当院では、毎週火曜日と木曜日の午後、完全予約制で禁煙外来を行っています。喫煙歴をきちんと把握したうえで、喫煙補助薬の処方、治療の経過を見守っています。禁煙スケジュールは3ヶ月以内に5回受診します。また、2006年4月から一定の条件を満たせば、健康保険等を使って禁煙治療を受けることができるようになりました。

今年度はオンライン診療の導入も検討しています。

3. 実績



(1)禁煙チーム(V-33頁参照)

小児科

1. 医師体制

役職名等	氏名
診療部長	和泉　桂子
副部長	荒熊　智宏
科長、病棟医長	平澤　薫
医長	藤田　泰幸
法人内事業所	小堀　勝充
非常勤	齋藤　陽子、平井　克明、 中村　明夫、脇田　傑

2. 診療科の特徴

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、行動制限や感染対策が徹底されたことで、他の感染症も減少したため、外来・入院患者とも激減しました。

従来各種の育児支援を積極的に行っていましたが、新型コロナウイルス感染症のため集団での育児支援の中止を余儀なくされております。そのためLINEやZOOMを利用した情報提供や支援を行っております。

3. 活動と診療実績

(1)外来医療

午前に一般外来を行い、午後を中心に専門外来、乳児健診・予防注射を行っています。紹介患者、救急搬入、急患患者は時間外も対応しています。川口市小児夜間救急診療事業の2次病院として金曜日を担当しています。

専門外来は、アレルギー・発達(神経)・心理・腎臓・循環器・内分泌/生活習慣病があります。アレルギー外来は2020年度にアレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法を開始しました。神経発達外来は、小児によくあるけいれん性疾患や発達遅滞(障害)を中心に診察しています。心理外来は心身症や不登校などに対応しており、医師による診察、臨床心理士によるカウンセリングや学習障害に対する学習支援も行っています。

乳児健診は多職種(医師、看護師、保育士、管理栄養士)の協力を得て、育児支援に力をいれた形で実施していましたが、集団指導が困難なため、必要なご家族に個別に指導を行う形にかえています。予防接種は同時接種(1回4本まで)や基礎疾患のある児(けいれん発作、アレルギーなど)にも対応しています。

小児科外来患者数　　年間延べ12,409人
(小児科紹介患者数　年間202人
(うち入院(再掲)41人))
川口市小児夜間救急　　毎週金曜日　年間361人

乳幼児健診　1ヶ月444人、3-4ヶ月270人、
6-7ヶ月230人、9-10ヶ月174人、
1歳156人、1歳半188人、3歳49人
合計　年間1,511人(延べ人数)
予防接種　　年間3,635人(延べ人数)

・巣ごもり Café:不定期:Web で医師、看護師、保育士など多職種のスタッフを交えてざっくばらんにお話。

(2)入院医療

従来気道感染症が多くを占めていましたが、新型コロナ感染流行に伴い減少しています。川崎病や尿路感染症といった小児におけるcommon diseaseを中心に入院があります。入院での食物負荷試験を2020年度は中止していましたが、感染状況を確認し2021年度再開予定です。

小児科入院患者数　　年間315人
(うち新生児室入院　年間155人)
産科分娩数　　年間444人
(再掲　新生児室入院　年間155人)

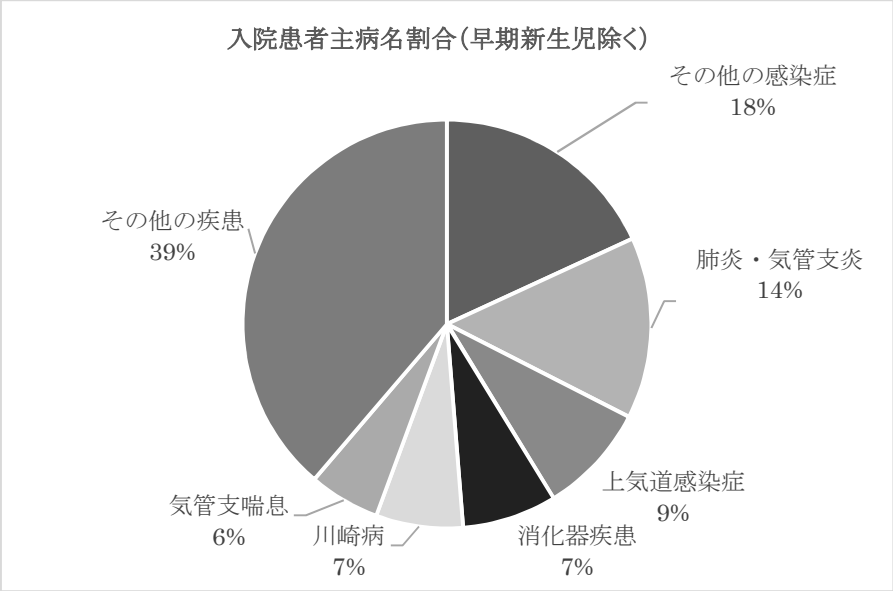
4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学会・研究会等の発表(Ⅵ-1頁参照)

演題名
当院で開始した学習支援の取り組みについて

■診療実績(診断群分類6桁別、2020年退院患者、資源投入科が小児科)

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	診断検査	その他の加療
010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	2	2.0	6.0	1	0		2
010230	てんかん	8	8.5	2.9	5	1		8
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	5	4.4	4.0	0	1		5
030245	伝染性単核球症	2	3.5	4.0	0	1		2
030270	上気道炎	10	1.7	4.1	2	6		10
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	7	1.1	4.4	1	3		7
040080	肺炎等	10	3.3	4.5	0	5		10
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他)	7	0.7	4.4	1	4		7
040100	喘息	9	3.9	4.2	0	2		9
060150	虫垂炎	2	9.0	5.5	0	0		2
060380	ウィルス性腸炎	12	6.8	3.3	1	5		12
060390	細菌性腸炎	4	9.5	5.0	0	1		4
080080	痒疹、蕁麻疹	3	6.3	6.0	0	0		3
080270	食物アレルギー	10	2.5	1.3	0	2	7	3
100210	低血糖症	9	3.3	3.1	0	4		9
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	3	10.3	4.0	0	0		3
110310	腎臓または尿路の感染症	7	0.7	6.3	0	4		7
130120	血液疾患(その他)	3	10.0	6.7	0	2		3
140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	21	0.0	7.6	1	2		21
150040	熱性けいれん	6	1.7	4.3	5	0		6
150070	川崎病	11	1.6	8.7	0	7		11
161070	薬物中毒(その他の中毒)	2	7.0	2.0	0	0		2
180030	その他の感染症(真菌を除く)	4	5.3	7.5	0	1		4
11013x	下部尿路疾患	2	0.5	3.5	0	1	1	1
	その他の疾患	0			0	0	0	0
計		159	3.8	5.0	17	52	8	151



外科

1. 医師体制

役職名等	氏名
外科部長	井上 豪
院長補佐	井合 哲
外科副部長	栗原 唯生
	佐野 貴之
技術部長	市川 辰夫
	長 潔
	浅沼 晃三
	小野 聡
乳腺外科科長	金子 しおり
病棟医長	重吉 到
外科専攻医	松原 浩太
	入江 直子
非常勤	1名

※他科との重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

当院外科は、消化器一般外科を中心に、肺外科、乳腺外科の診療を行っています。川口市、さいたま市地域の患者さんに、住み慣れた地域で安心して外科医療を受けて頂けるよう、日々の診療に励んでおります。

(1)消化器外科では主に胃、大腸、肝胆膵の良性および悪性疾患に対する手術を行っています。腹腔鏡下の低侵襲手術から進行がんに対する開腹下の拡大手術まで幅広く対応しています。進行がんに対する治療では、抗がん剤治療を組み合わせた集学的な治療が欠かせませんが、非常勤の腫瘍内科医師と協力しながら、積極的に治療を行っています。胆石症の手術が多いのも当院の特徴です。消化器内科でも胆膵内視鏡の件数が非常に多く、病状や患者背景に応じた柔軟な対応が可能です。

(2)肺外科は、埼玉県立循環器呼吸器病センターから手術支援を受けながら治療を行っています.

(3)乳腺外科は、女性医師を中心とした看護師、技師などの多職種によるチーム医療が特徴です。乳腺外科に限らず、多職種が参加したチーム医療で、患者さんの生活背景にまで配慮した医療を提供できるのが当院の最大の強みです。

(4)この地域は人口に比して中～大規模病院が少ないため、緊急性の高い外科疾患への対応も当院の重要な責務であると考えています。血管外科や脳外科の手術を行っていないため外傷手術への対応は困難ですが、急性腹症への対応は今後一層強化したいと考えています。

3. 外来患者数

実患者数	のべ患者数
3,748人	14,404人

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学会・研究会等の発表(Ⅵ-1頁参照)

演題名
急性胆嚢炎に対する急性期手術の実施時期による治療成績の検討
当院における胃全摘後空腸パウチ再建症例の検討
急性胆嚢炎に対するPTGBD後急性期手術と待機的手術の比較検討
急性胆嚢炎に対するPTGBD/PTGBA後早期手術症例の検討
大動脈周囲リンパ節移転を伴う胃がんに対して、化学療法後に手術を施行し、長期生存を得ている1例

(2)著作・論文、寄稿等(Ⅵ-8頁参照)

題名
Combined resection of the hepatic artery without reconstruction in pancreaticoduodenectomy:a case report of pancreatic cancer with an aberrant hepatic artery

乳腺外科

1. 医師体制

役職名	氏名
科長	金子 しおり

※他科と重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

(1) 日本において女性のがん罹患率で乳がんが1位となっており、9人に一人が乳がんに罹患しています(2017年国立がん研究センター、がん情報サービスより)。年齢別の罹患数をみると30歳代後半から増加を始め、40歳代後半から50歳代前半でピークを迎えます。乳がんの治療は手術だけではなく、薬物療法、放射線療法と複合的に行っていくため、通院頻度や金銭面での負担がかかってきます。そこで自宅近くでも安心して治療が受けられるよう診療を行っています。

(2)乳腺疾患に必要な設備を整え、乳腺疾患の精査から治療まで行っています。乳がん患者様の精神面のフォローや社会的背景を考慮しながら診療を行えるように、メディカルスタッフとの連携を図っています。必要に応じて乳がん看護認定看護師やがん化学療法看護認定看護師等との面談を提案します。また、当院に放射線治療施設がないため、放射線治療が必要な症例に対しては近医への紹介を行っています。

3. 診療実績

(1)診療実績(診断群分類6桁別、2020年退院患者)　　*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療
090010	乳房の悪性腫瘍	63	60.2	4.9	0	19	46		15	48
090020	乳房の良性腫瘍	4	55.0	6.3	0	0	4			4
計		67	59.9	5.0	0	19	50	0	15	52

(2)検査件数

検査	件数
乳房エコー	1,739
乳腺穿刺(FNA)	38
乳房超音波ガイド下生検(CNB)	106
STマンモトーム	3
乳房MRI	59
マンモグラフィー	2,254

(3)手術件数

行為名称	件数
乳腺腫瘍摘出術(長径5センチメートル未満)	1
乳腺腫瘍摘出術(長径5センチメートル以上)	4
乳房切除術	1
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	28
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	13
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。)))	3
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)・胸筋切除を併施しないもの)	3
計	50

(4)乳腺科診療チーム会議(Ⅴ-27頁参照)

整形外科

1. 医師体制

役職名等	氏名
主任部長	仁平 高太郎
部長	桑沢 綾乃
病棟医長	遠藤 大輔
医員	丸木 千陽美
	安東 真理
	福島 崇
専攻医	西野 直人
	大津 匡弘
非常勤	13名

2. 診療実績

(1)手術件数

術式	件数
人工股関節置換術	453
人工股関節再置換術	10
人工膝関節置換術	478
人工膝関節再置換術	7
人工手関節置換術	1
人工指関節置換術	2
人工骨頭挿入	31
人工骨頭挿入(肩)	2
その他の関節手術	38
脊椎固定術	74
椎間板摘出術	19
骨折観血的手術	266
四肢切断	7
靭帯断裂手術	5
肩腱板断裂手術	14
骨切り術	10
神経剥離術・神経移行術	18
骨悪性腫瘍手術	1
その他の手術	82
計	1,518

(2)他院からの紹介

外来	1,013
入院(外来後入院含む)	336
計	1,349

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)表彰(Ⅵ-1頁参照)

第31回大正富山 Award 優秀賞(第47回日本股関節学会)

腸腰筋インピンジメントの特徴的なエコー所見スポーツ動画大賞 学会長特別賞(第50回日本人工関節学会)

(2)学会・研究会等の発表(Ⅵ-1頁参照)

演題名
次世代型PRPのAPS(Autologous Protein Solution)療法の効果判定
脂肪由来幹細胞の関節内注入は軟骨量を改善するか？～VINCENTを用いた3D-MRI軟骨定量評価 膝OAの一例～
脂肪由来幹細胞 ＡＳＣ(Adipose derived mesenchymal stromal stem cell)療法の関節注射～追加投与の急性期反応とその傾向～
１００歳の高齢者における脂肪由来幹細胞 ASC(Adipose derived mesenchymal stromal stem cell)療法の一例
整形外科医の働き方～男女共同参画の観点で～ 感謝と柔軟性を持った女医を目指すこと
ASC 療法(脂肪由来幹細胞の関節内投与)は変形性関節症の効果的な治療となりうるか?
PRP(APS)療法により膝関節の軟骨量は増加するか 3D－MRIでの膝軟骨の定量評価
関節内投与再生治療 変形性膝関節症に対する脂肪由来幹細胞の関節内投与 1年成績
股関節固定後の同側膝OAに対してTHA・TKA一期的手術を施行した2例
女性関節外科医のキャリア形成 女医だっていいじゃないか、人間だもの
究極のTKAはACL機能再建を目指す JOURNEY XRの手術手技 manualからNAVIOまで 手技のポイントを振り返る
脂肪由来間葉系幹細胞の膝関節注入療法(ASC 療法)により軟骨量は改善するか? 3次元画像解析ソフトVINCENTを用いた軟骨量の検討
変形性膝関節症における次世代型PRP:APS療法の効果判定時期はいつか
次世代PRPIAPSで膝軟骨量は改善するか VINCENTを用いた3D－MRI軟骨定量評価
TKA・THA 術後の熱感はいつまで続くのか？

(3)講演活動等(Ⅵ-7頁参照)

講演名
ランチョンセミナー:再生医療:ASC 療法の実際
APS療法の理論と実際
セメントレスTKAの実際
BCR-TKAの手術手技
TKAの疼痛管理・患者満足度
ロボティックサージェリーシンポジウム:NAVIO の実際
シンポジウム:再生医療の最前線
シンポジウム ・女性関節外科医のキャリア形成PRP療法を考える ・究極のTKAはACL再建を目指す ワークショップ(講演) ・ロボット支援TKAを体感しよう
APS療法の実際
イブニングセミナー講演:次世代 PRP APS 療法の実際

(4)著作・論文、寄稿等(Ⅵ-8頁参照)

題名
腸腰筋インピンジメントの特徴的なエコー所見
股関節の再生医療―APS 療法 11 例の短期成績―
カップの突出がなくとも IPI による鼠径部痛を呈したが腸腰筋切離により痛みが消失した 1 例
RAO 後 THA では腸腰筋インピンジメントが高率に発生する
「SYNAPSE VINCENT」の膝解析 3D-MRI 画像構築と軟骨定量評価 膝関節治療における新たな評価法の実際
変形性膝関節症に対する脂肪由来幹細胞を利用した cell therapy
再生医療とスポーツ医学(第 7 回) 変形性膝関節症に対する再生医療を利用した保存療法の実際 PRP・間葉系幹細胞・セルフリー療法(解説)
【整形外科領域のPRP治療:どこまで明らかになったのか】変形性膝関節症に対するPRP治療の現状と展望(座談会/特集)
【整形外科領域の PRP 治療:どこまで明らかになったのか】(Part3)変形性膝関節症 変形性膝関節症に対する PRP 治療 自験例の検討(原著論文/特集)
変形性膝関節症に対する再生医療を利用した保存療法の実際 - PRP・間葉系幹細胞・セルフリー療法 -
変形性膝関節症に対する PRP 治療 : 自験例の検討
変形性膝関節症に対する PRP 治療の現状と展望
変形性膝関節症に対する PRP 治療 : 自験例の検討
次世代型 PRP の APS(AutologousProtein Solution)療法 施行6ヵ月での臨床経過の検討

題名
ブローチハンドルのオフセットが大腿骨に与える影響の検討
RAO 後 THA では腸腰筋インピンジメントが高率に発生する
カップ前方露出がなくとも腸腰筋インピンジメントによる鼠径部痛を呈したが、腸腰筋切離により痛みが消失した 1 例
次世代型 PRP の APS 療法(autologous protein solution)3 ヵ月での臨床経過の検討
【整形外科領域における治療・診断技術】「SYNAPSE VINCENT」の膝解析 3D-MRI 画像構築と軟骨定量評価 膝関節治療における新たな評価法の実際
【幹細胞・PRP・衝撃波-Biologic healing のエビデンス】変形性膝関節症に対する脂肪由来幹細胞を利用した cell therapy
【整形外科領域の PRP 治療:どこまで明らかになったのか】(Part3)変形性膝関節症 変形性膝関節症に対する PRP 治療 自験例の検討
再生医療とスポーツ医学(第 7 回) 変形性膝関節症に対する再生医療を利用した保存療法の実際 PRP・間葉系幹細胞・セルフリー療法
【整形外科領域の PRP 治療:どこまで明らかになったのか】変形性膝関節症に対する PRP 治療の現状と展望

■診療実績(診断群分類6桁別、2020年退院患者)　　*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症(変形性を含む。)	336	66.2	19.9	1	124	335			336
070230	膝関節症(変形性を含む。)	326	73.3	25.8	1	126	324			326
160800	股関節大腿近位骨折	102	81.1	36.1	26	63	97			102
070343	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)腰部骨盤、不安定椎	61	72.5	15.3	0	25	41	16		45
160760	前腕の骨折	48	60.5	3.0	0	32	48		6	42
160700	鎖骨骨折、肩甲骨骨折	31	47.2	3.3	0	25	31		6	25
160850	足関節・足部の骨折、脱臼	30	48.7	9.4	1	21	30		9	21
160780	手関節周辺骨折脱臼	25	52.8	3.6	0	18	25		4	21
160740	肘関節周辺の骨折・脱臼	25	56.1	5.4	1	23	23		5	20
160720	肩関節周辺の骨折脱臼	24	63.9	6.3	0	17	24		1	23
160820	膝関節周辺骨折・脱臼	24	57.5	18.8	3	14	23		6	18
180040	手術・処置等の合併症	22	75.8	63.5	2	16	20			22
160620	肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む。)	21	41.6	6.3	0	12	19			21
070341	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)頸部	15	76.0	22.6	1	11	10	5		10
071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	14	76.4	63.4	5	5	11			14
070160	上肢末梢神経麻痺	13	64.8	3.2	0	8	13			13
070200	手関節症(変形性を含む。)	12	69.0	3.8	0	5	12			12
160610	四肢筋腱損傷	12	66.9	5.4	0	5	12			12
070350	椎間板変性、ヘルニア	10	55.8	12.4	1	6	5	3		7
050170	閉塞性動脈疾患	9	61.6	76.2	0	5	6			9
07010x	化膿性関節炎(下肢)	8	67.0	28.5	1	3	8			8
160835	下腿足関節周辺骨折	8	44.8	25.1	0	8	8		1	7
070010	骨軟部の良性腫瘍(脊椎脊髄を除く。)	7	56.6	4.7	0	3	7			7
080010	膿皮症	7	45.7	13.0	0	5	1			7
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。)	7	68.9	20.4	1	4	4		1	6
070080	滑膜炎、腱鞘炎、軟骨などの炎症(上肢)	6	68.0	8.0	0	4	6			6
070280	骨端症、骨軟骨障害・骨壊死、発育期の膝関節障害	5	71.2	21.6	0	2	5			5
070330	脊椎感染(感染を含む。)	5	62.6	30.6	0	4	2			5
070470	関節リウマチ	5	73	14.4	0	4	5			5
100070	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)末梢循環不全なし	5	69.8	17	1	4	3			5
070610	骨折変形癒合、癒合不全などによる変形(上肢)	5	54.4	4	0	3	5		1	4
	その他の傷病	58			9	31	42	1	3	54
計		1,286	67.1	21.5	54	636	1,205	25	43	1,218

脳神経外科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	石丸　純夫
非常勤	須田　喜久夫 済生会川口総合病院脳神経外科主任部長 脳神経外科専門医 脳卒中専門医
	井出　光信 脳神経外科専門医

2. 概要、特徴、特色

外来診療のみですが、脳卒中救急に関する相談や、病棟での脳卒中・頭部外傷患者さんのコンサルテーションに対応しました。

脳卒中の症例は多く、救急や当直帯での問い合わせもコンスタントに増えてきています。南部MCの連携病院として、また、日本脳卒中協会に「一次脳卒中センター」として登録されたこともあり、脳卒中救急はたくさん受けていただいています。

慢性硬膜下血腫の手術適応患者さんは、済生会川口総合病院などに転送させていただいておりますが、外来での保存的治療・経過観察例もあります。

ボトックス治療は、顔面けいれん・眼瞼けいれんに対して施行しています。

・日本脳卒中学会教育研修病院（2017年12月から）
・埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク（SSN）、南MCの連携病院（2017年12月から）
・日本脳卒中協会の一次脳卒中センター（2019年12月から）

3. 外来診療実績

脳外科外来患者数		1,345人
（うち紹介患者数）		119人
t-PA 施行例		0例
血栓回収のための転送例		0例
ボトックス治療施行件数		9件
/SSN依頼件数（＊）		15件
脳卒中	**救急受入数**	**入院患者数**
救急	82人	256人
脳梗塞	67人	197人
脳出血	12人	39人
くも膜下出血	2人	6人
慢性硬膜下血腫		
外来新患数		29人

（＊）期間：2020年1月～12月

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

（1）教育・研修

①毎週火曜日7時　救急症例検討会に参加。

②毎週木曜日14時　D5病棟リハビリテーションカンファレンスに参加

③毎週月曜日16時　脳卒中急性期入院リハビリの検討会に参加。

④6月～8月、研修医対象　隔週金曜日7時30分、脳疾患画像のレクチャー　7回施行。

⑤7月　内科専門外来の看護師対象　「脳神経外科のトリアージ」のレクチャー

産婦人科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	市川 清美
副部長	榎本 明美
	芳賀 厚子
医長	伊藤 浄樹
専攻医	春日 みさき
非常勤	竹内 育代、岡野 滋行、上野 紀子、藪田 直樹、堀内 功、秋津 憲佑、高木 耕一郎、大森 恵、三澤 将大
嘱託	神谷 稔

2. 概要、特徴、特色

他病院 他科と同様に新型コロナウイルスのパンデミックに翻弄された1年でした。分娩に関しては、コロナ感染の広がりに影響され地域の分娩数が3割減少したことと合わせ、近隣に産科クリニックが新設されたことも有り、著明に減少しました。(表1・図1・2)。分娩数は絞られましたがクリニックでの管理が困難な精神疾患合併の方や妊娠糖尿病・肥満合併の方、経済的に困窮されている方の比率が上がり、数が減った中でも医療・社会的な介入が必要となる場面は増えたように感じられます。外来へのご家族の付き添いや分娩立ち合い、面会制限なども有り、1人の患者様に繰り返しコロナのPCR検査を行うなど、患者・スタッフ双方にストレスの多い日々でした。妊娠期間中2人、分娩時4人のコロナ陽性者も発生し、専門病院に搬送して帝王切開をお願いしたり、当院で分娩された方は隔離・母子分離となるなどコロナ禍での妊娠分娩管理の難しさも痛感しました。帰国できなくなったベトナムからの技能実習生の方の出産や経済的に厳しくなり妊娠の中断を余儀なくされた方など、社会の変化と密接に関わる産科の難しさも感じました。切迫早産の患者様は分娩数の減少とステイホームで安静が保たれた為か入院患者も少なく、母体搬送も例年より減少しました(表2)。出生前診断は、全例に情報提供を行うという動きもあり、当院としての立場を倫理委員会を通じ明確にしていく必要性がありますが、無認可施設での施行が拡がり実態把握が困難となっています(表3)。

手術については、186例と減少幅は抑えることができました。腹腔鏡手術増加が当院での診療の幅を広げ研修を充実させていく上でも課題となっています。骨盤臓器脱の手術の占める比率は高く高齢化に伴い今後もニーズはあると考えられます(表4)。月経随伴症状に対するホルモン治療も普及してきており器質性月経困難に関する管理料の保険算定が可能となりました(表5)。

子宮癌検診では体癌の発見が多く頸癌より体癌の数が増加している状況を反映しています(表6)。コロナ禍での受診控えも有り悪性腫瘍がかなり進行した状態で受診され高次医療機関への紹介を急ぐ症例が散見されました(表7)。

専攻医研修については引き続き東京女子医科大学東医療センター、自治医科大学さいたま医療センターと連携しながらすすめています。2021年度から所属専攻医がもう1人増えます。彼らの成長が当科の未来を開くと信じ研修を支えていきたいと思います。初期研修医のローテート研修(院内7人 関連病院から3人)の中で強く関心を持つ方もいるので、将来的に産婦人科医療に関わる医師を増やせるよう積極的に働きかけて行く必要性を感じています。

3. 教育・研修・研究活動

コロナ禍の影響も有り発表や講演等の機会はありませんでした。オンラインになった影響も有り、学会参加は増加しました。

4. 次年度に向けて

2021年度には常勤医1名、所属専攻医1名が増えます。診療体制が充実し医師の労働環境が若干改善される可能性があります。基幹施設からの専攻医研修受け入れの機会も増えるため診療内容を研修に相応しく充実させていく努力が必要です。新人・中途でのスタッフの入職も多く医療の質を担保しながら伴に成長していきたいと思います。

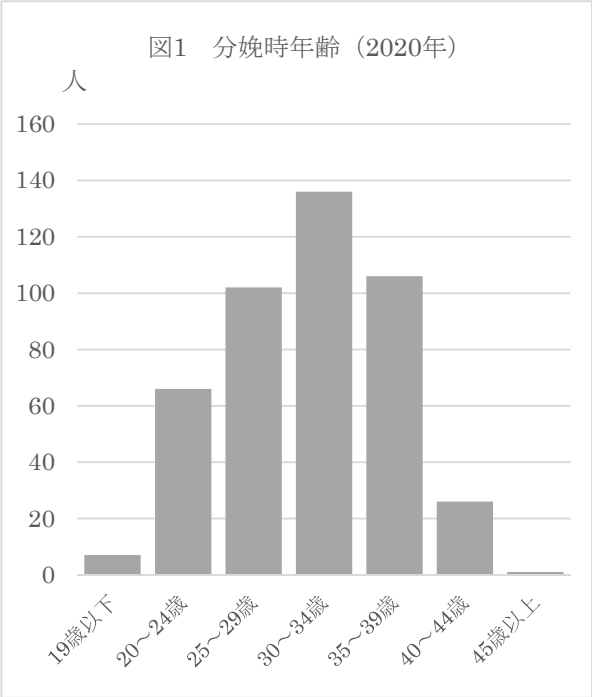
当初の予想以上にコロナ禍は長期化し、ワクチンの普及も遅れています。分娩数の落ち込みも全国的に継続しており、特に感染拡大地域では著明です。コロナ禍収束の時期は未だ見通せない状況ではありますが、現状での患者様の不安に応え可能な限り安全を確保し、安心して医療を受け分娩に臨める環境を提供していきたいと思います。

今後、経済的に困窮する患者様も増加すると思われ、それに伴い精神疾患を併発する方も増えるかもしれません。外国人もコロナ禍で不安定な状況に拍車がかかっており、地域機関と連携しながら無差別・平等の医療を継続できる様努力して参ります。

5. 診療実績

(表1)分娩数と出産年齢及び合併症

年代別分娩数	2020 年
19 歳以下	7
20～24 歳	66
25～29 歳	102
30～34 歳	136
35～39 歳	106
40～44 歳	26
45 歳以上	1
計	444
帝王切開	117
合併症妊娠	
子宮筋腫	17
精神疾患	21
甲状腺疾患	13
高度肥満(BMI≧30)	8
糖尿病	1
HDP	24
GDM	32
円錐切除後頸管縫縮	5



(表2)母体搬送の週数および紹介先

母体搬送	週数	3
	～22 週	0
	23～27 週	1
	28～31 週	1
	32～34 週	0
	35 週以上	1
	搬送先	
	川口医療センター	2
	さいたま市立病院	1

(表3)出生前診断紹介数

出生前診断		19
	羊水検査	0
	クワトロテスト	1
	NIPT	8
	超音波検査	10

(表4)手術

入院・手術室施行（帝王切開除く）	186	
子宮筋腫	49	(+帝切時 7)
卵巣腫瘍・含内膜症	27	
(うち腹腔鏡)	(5)	
異所性妊娠	8	
(うち腹腔鏡)	(1)	
頸部異形成・上皮内がん	46	
子宮脱	18	
子宮頚管縫縮術	20	
その他	18	

流産手術 5

(表5)ホルモン療法患者数

低用量ピル	3ヶ月以上
トリキュラー	35
ルナベル・フリウェル	177
ヤーズフレックス	9
計	212
エストラーナテープ	115
メノエイドコンビパッチ	20
ディナゲスト	11
ジェノゲスト	138
ミレーナ(子宮内避妊具)	37
GnRH	3ヶ月以上
リュープリン	51
ナサニール	53
レルミナ	9
婦人科特定疾患治療管理	
器質性月経困難症	128

(表6)がん検診

子宮頚部	4,638
NILM	4,537
ASC-US	55
ASC-H	5
LSIL	13
HSIL	15
AGC	7
SCC	0
材料不適	6

子宮体部	3,444
陰 性	3,273
疑陽性	19
陽 性	3
材料不適	149

(表7)悪性腫瘍紹介数

紹介先	例数
埼玉県立がんセンター	8
獨協医科大学埼玉医療センター	6
がん・感染症センター都立駒込病院	5
自治医科大学附属さいたま医療センター	4
慶應義塾大学病院	2
国立がん研究センター中央病院	2
川口市立医療センター	1
さいたま赤十字病院	1
埼玉医科大学総合医療センター	1
がん研有明病院	1
東京大学医学部付属病院	1
日本医科大学付属病院	1
東京慈恵会医科大学附属柏病院	1
悪性腫瘍*	例数
子宮頸癌	6
子宮体癌	15
卵巣癌	11
外陰癌	1
子宮肉腫	1
総計	34

*返書なく結果不明の疑い例含む

皮膚科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	伊藤　理恵
医員	飯島　孝四郎
非常勤医	7名

2. 概要、特徴、特色

皮膚科には常勤医2名、非常勤医6名が勤務しており、皮膚科としては県南最大規模の病院のひとつで、日本皮膚科学会認定の研修施設です。この8名で平日午前中と金曜日午後の一般診療を担当し、平日午後には手術や予約診療を行っています。

当科では通常の皮膚疾患をしっかり診断し治療することを基本方針として診療をしています。診療疾患は多岐にわたるため、各種血液検査や病理検査に加えて、皮膚エコーやMRI、CTなどの画像診断を有効に使い、まず確定診断を正確にすることを目標としています。治療は通常の内服療法、外用療法のほか、手術療法や紫外線治療（UVA、UVB)、アトピー性皮膚炎に対する生物製剤治療も取り入れ効果をあげています。

また、外来にはQスイッチアレキサンドライトレーザーがあり、健康保険診療としては太田母斑や異所性蒙古斑に、自費診療としては老人性色素斑に著効しています。

基本的に健康保険診療で治療していますが、いくつかの自費診療を取り入れており、患者様のQOL向上に有益と考えています。

3. 診療実績

(1)外来診療

平日午前中は3～4人体制で、金曜日午後は1診体制で一般外来を行っています。平日午後は予約制で診療、手術、処置、美容関係の自費診療などを行っています。

2020年度の外来患者数は18,697人（実人数6,947人）でした。受診内容は湿疹アトピー性皮膚炎群、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウィルス性皮膚疾患、尋常性痤瘡、自己免疫性皮膚疾患、熱傷、各種爪疾患、良性悪性皮膚腫瘍など多岐にわたっています。

(2)手術

毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後に行っています。
2020年度の外来手術件数は357件で、局所麻酔下での手術が主体です。9割以上が日帰り外来手術ですが、入院手術も受けています。内容は表皮嚢腫、脂肪腫、母斑などの良性腫瘍切除術が多く、陥入爪根治術、皮膚悪性腫瘍切除術などが続きます。

(3)紫外線治療

当科には長波長紫外線治療器（PUVA、UVB)とナローバンド中波長紫外線治療器（エキシマライト）があり、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症などに対して光線治療を行い良好な効果をあげています。

(4)自費診療部門

大部分は一般診療中に施行していますが、イオン導入とケミカルピーリングは木曜日と金曜日の午後に予約にて施行しています。

①アンチエイジング目的（イオン導入、ケミカルピーリング）
②男性型脱毛症への内服治療
③円形脱毛症などに対する局所免疫療法（SADBE治療）
④陥入爪への超弾性ワイヤーによる治療
⑤ピアスホール作成

4. 学術・研究、講習、研修会等の記録

(1)月曜日の外来診療後に臨床カンファレンスを行っています。当院は皮膚科専門医の一般研修施設です。希望があれば初期研修医及び後期研修医の皮膚科研修も受け入れています。

(2)著作・論文、寄稿等（Ⅵ-8参照）

題名
ヒル咬傷が原因と思われる多形紅斑の一例

眼科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	太根 伸浩
非常勤	6名

2. 概要、特徴、特色

前年度から引き続き、外来は常勤医1名体制で、非常勤として週3回は帝京大学病院から派遣医師が担当しています。診療内容が多岐にわたるため 基本的な一般検査一式だけでなく、OCT・エコーなどの画像診断や各種血液検査も併用し、幅広い眼科全般の診察(角膜疾患、白内障、緑内障、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・RVOなど網膜疾患)に対応しています。

特に専門である緑内障に関しては、より詳細な診療を行っています。また神経眼科や頭頚部疾患の境界領域に対しても、脳外科・耳鼻咽喉科などと連携し、CT・MRIなどの画像診断を通じて、可及的速やかに対応できるようにしています。

その他の全身疾患に関しても、他科と積極的に連携し、早期発見・早期治療を目指しています。当院で対応が難しい各疾患に対しては、それぞれの専門医が在籍の各連携施設にご紹介いたします。

3. 診療実績

(1)外来診療

月・水曜日は2診療体制、その他は1診療体制で外来診療を行っています。午後は視野など含め検査やレーザー治療などを中心に行っています。

(2)外来患者数

実患者数	延べ患者数
2,913人	8,107人

(3)手術(観血的)

毎週月曜日(午後のみ)手術を行っています。白内障・緑内障が中心ですが、引き続き抗VEGF抗体硝子体注射も行っています。特に緑内障に関しては、最近、注目されてきている「より負担の少ない最小侵襲緑内障手術(MIGS)」だけでなく、白内障+緑内障同時手術も積極的に施行しています。

規模的制約があるため、角膜(内皮)移植や硝子体手術などの、より専門的で高度な設備が必要なケースは、各疾患の専門医が在籍している連携機関(大学病院など)にご紹介しています。

本年度はコロナ禍のため、手術の延期・中止が多数あり、現在も影響がでています。

術 式	症例数(のべ)
白内障	58件
緑内障	12件
硝子体注射	96件
レーザー	107件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

スタッフを含め、東京都・埼玉県など近隣の教育・研修会などに積極的に参加しています。

耳鼻咽喉科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	越智 篤

2. 診療実績

KCODE	手術名	件数
K005$	皮膚，皮下腫瘍摘出術(露出部)	2
K006$	皮膚，皮下腫瘍摘出術(露出部以外)	1
K287	先天性耳瘻管摘出術	3
K300	鼓膜切開術	1
K309	鼓膜(排液、換気)チューブ挿入術	5
K318	鼓膜形成手術	1
K3191	鼓室形成手術(耳小骨温存術)	4
K331	鼻腔粘膜焼灼術	3
K333	鼻骨骨折整復固定術	1
K340	鼻茸摘出術	1
K340-4	内視鏡下鼻・副鼻腔手術2型(副鼻腔単洞手術)	2
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	17
K340-6	内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型(汎副鼻腔手術)	4
K347	鼻中隔矯正術	1
K347-3	内視鏡下鼻中隔手術1型(骨、軟骨手術)	9
K347-5	内視鏡下鼻腔手術1型(下鼻甲介手術)	7
K368	扁桃周囲膿瘍切開術	1
K370	アデノイド切除術	6
K3772	口蓋扁桃手術(摘出)	14
K3892	喉頭ポリープ切除術(直達喉頭鏡によるもの)	1
K3892	声帯ポリープ切除術(直達喉頭鏡によるもの)	3
K3932	喉頭腫瘍摘出術(直達鏡によるもの)	1
K396	気管切開孔閉鎖術	1
K401	気管口狭窄拡大術	1
K414-2	甲状舌管嚢胞摘出術	1
K454	顎下腺摘出術	1
K4633	甲状腺悪性腫瘍手術(全摘及び亜全摘)(頸部外側区域郭清を伴わないもの)	1
K467	頸嚢摘出術	1
K626$	リンパ節摘出術	2
計		96

精神科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	雪田 慎二
医長	荻野 マリエ

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院の精神科は1986年に開設されました。当初は精神科非常勤医師1名の体制で始まり、1993年からは常勤化され、30年近くが経過しました。現在は常勤医師2名の体制で診療を行っています。

長らく日本の精神医療は、単科精神病院での入院治療を中心に展開されてきました。しかし、1970年代以降は地域の中で生活しながら治療を受けることが重要視されるようになり、現在は、地域の中に数多くの精神科クリニックが開設され、以前と比べて精神科医療は敷居の低い存在となっています。一方で、総合病院における精神科医療は大きく広がることはなく、総合病院精神科の必要性が周知されつつある現在でも、常勤医師が複数名所属する病院は非常に少ないのが現状です。

当院は総合病院に開設された精神病床を持たない精神科として以下のような特徴をもった医療を展開しています。

まず第一に、当院が地域の第一線の医療機関であることから、高齢者から若い方(概ね高校生以上)まで幅広い年齢層の患者を受け入れています。精神科入院医療を必要とするような重症例は受け入れることはできませんが、うつ病、不安障害、アルコール性依存症、認知症、慢性期の統合失調症など幅広い疾患を受け入れています。

第二には、身体疾患の治療をしながら精神科医療を提供できることも特徴です。特に高齢期には身体疾患に加え、認知症やうつ状態の合併も多く、こころと体の問題を総合的に診ていくことで質の高い医療が提供できます。

第三には、最近は出産子育ての過程で精神的に不安定となる方や、あるいは精神疾患をもともと抱える中で出産子育てをする方も増えてきており、産婦人科、小児科などとも連携をとりながら家族全体の生活を支援していくことも大切な活動となっています。

前記のような特徴を生かし発展させるために、地域住民、他の医療機関、行政、地域の福祉施設などとの連携を強める活動も行っています。

3. 診療実績

(1)外来診療

①外来:月曜日～金曜日、1-2診体制、実患者数909人、外来延べ患者数7,465人

②新患:月曜日、2人/週、実患者数140人(院内からの紹介に限る)

③被ばく相談外来:第1火曜日、放射線被ばくによる健康問題の相談援助

(2)精神科デイケア

月曜日～金曜日、登録者45人、延べ利用者数2,325人

(3)病棟診療

①他科の入院患者への精神科医療の提供。他職種によるチーム活動。

1)緩和ケアチーム(V-28頁参照)

2)認知症ケアチーム(V-33頁参照)

3)精神科リエゾンコンサルテーションチーム(V-34頁参照)

②緩和ケア医療(病棟スタッフとして診療)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)精神科多職種カンファレンス

毎週月曜日

(2)精神科抄読会

毎週木曜日または金曜日

(3)学術・研究等の発表(VI-1頁参照)

演題名
緩和ケア虎の巻

(4)講演会活動等(VI-7頁参照)

講演名
川口市医師会学術講演会 特別講演 「新しい睡眠薬」(座長)

5. 次年度に向けて

デイケアは他院所管理の患者も積極的に受け入れています。また、院内チーム活動の強化を行います。

麻酔科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	西川　毅
副部長	畔柳　綾
科長	黒羽根　朋子
医長	金子　吾朗
医員	岩切　裕子
非常勤	6名

2020年度より日本専門医機構の基幹病院に認定され、研修医の受入を行っています。

2. 概要、特徴、特色

(1)麻酔科外来

2006年5月より始まった外来は、術後診察目的で月曜日を土曜日の週2回行、F館2階で行っています。3診中2診で看護師の問診を行い、1診で医師の診察を行っています。2020年の麻酔科外来総患者数は1,824人でした。

(2)手術件数

2020年の総手術件数は2,704件です。そのうち麻酔科管理は2,146件(79.4%)でした。現在は全身麻酔管理だけでなく、エコーを用いた各種神経ブロック麻酔も行っています。診療科別手術件数は次のとおりとなっています。

診療科	件数
外科	693
整形外科	1,425
産婦人科	285
泌尿器科＋内科	76
眼科	158
耳鼻咽喉科	63
計	2,700

ペインクリニック

1. 医師体制

役職名等	氏名
麻酔科副部長	畔柳　綾
〃　医長	金子　吾朗

2. 概要、特徴、特色

2020年4月からは毎週木曜日に診察を行なっています。三叉神経痛、帯状疱疹後神経痛、腰下肢痛、肩上肢痛など慢性痛に対して、エコーガイド下神経ブロック、透視下神経ブロック、高周波熱凝固術など、腋窩多汗症に対してボトックス治療も行っています。フットケア治療の一つとして、脊髄刺激療法を始めました。対象は、末梢血管障害による痛み、脊椎・脊髄疾患による痛み、その他神経障害性疼痛になります。

また、がん疼痛に対して、腹腔神経叢ブロックや、フェノールサドルブロック、脊髄鎮痛などの処置も行っています。治療内容によっては、入院治療も行っています。

(1)外来患者数　延べ1,005人

(2)神経ブロック別統計

	患者数
三叉神経半月神経節ブロック	1
腹腔神経叢ブロック	1
胸部硬膜外ブロック	11
神経根ブロック(局所麻酔剤又は刻周波凝固法)	26
腰部硬膜外ブロック	20
腰部交感神経節ブロック	3
くも膜下脊髄神経ブロック	1
星状神経節ブロック	19
仙骨部硬膜外ブロック	108
眼窩上神経ブロック(局所麻酔剤又は高周波凝固法)	3
眼窩下神経ブロック(局所麻酔剤又は高周波凝固法)	5
肋間神経ブロック(局所麻酔剤又は高周波凝固法)	12
神経ブロックにおける麻酔剤の持続的注入	4
その他の抹消神経ブロック	51
計	265

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学会・研究会等の発表(VI-1頁参照)

演題名
難治性の会陰部・肛門部痛患者に対する神経ブロック治療の検討

(2)講演会活動等(VI-7頁参照)

講演名
がん疼痛に対する神経破壊術の有効性の検討(シンポジスト)

(3)著作・論文、寄稿等(VI-8頁参照)

題名
麻酔科ペインクリニック外来でのがん疼痛に対する神経ブロック治療

臨床検査科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	砂川 恵伸

2. 概要、特徴、特色

常勤医1名、臨床検査・病理/細胞診・内科/感染症の各専門医を有する医師が、前任の村上 純子医師の業務を継続しつつ、以下の業務を多角的に行っています。

(1)臨床検査

①検体管理加算(IV)に準じる診療:検体臨床全般の管理運営、定期的な精度管理、外部精度管理を行っています。

②臨床検査適正化委員会を設置・開催:委員会で常に臨床検査各部門の精度維持、向上、バックアップに努めています。

③チーム医療:臨床検査科業務をこなしながら、個々の臨床医、技師、薬剤師、看護師、各種委員会やチームと横断的に連絡をとり、他部門と相談の上でより良い医療が行えるようにしています。また検体管理加算の見地から、事務、臨床検査技師、薬剤師とともに査定是正に取り組んでいます。

④教育:臨床検査技師各位が患者様の利益につながるよう迅速かつ正確なデータの提供ができるよう、定期的(週1～2回)学習会を開催、知識・技術の向上に努めています。

⑤難解症例:各検査センター(BMLなど)に外部委託し、また砂川は国立感染症研究所研究員を務めており、必要に応じて同研究所でより正確な診断確定に努めています。

(2)病理・細胞診

①病理・細胞診、術中迅速診断などの業務に携わっています。

②至急検体への対応:治療方針決定を至急に要する結果報告書については、直接主治医へ連絡または診療録記載により、迅速性を図っています。

③血液悪性腫瘍などの骨髄検体:病理組織標本に加えて、臨床検査室に提出された骨髄塗抹、flowcytometry、染色体・遺伝子検査などを併せた報告書を作成しています。特に骨髄標本については臨床検査技師と定期的に会議を開催し、より正確な診断確定に努めています。

④がん患者のための会議参加:当院は「埼玉県がん診療指定病院」に指定されており、キャンサーボードと呼ばれる、がん患者の診断・治療に携わる医師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの専門医療スタッフ等が集まる定期的な会議が開催されています。がん患者の症状、状態及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスに病理・臨床検査医学的見地から積極的に参加しています。

(3)内科・感染症

①菌血症・敗血症患者の血液培養陽性者チェック:血液培養陽性となった症例は就業時に全例チェックし、Gram 染色による迅速診断、起因菌の推定・同定、抗菌薬選択を提案し、各科の治療方針決定に携わっています(下円グラフ:当院の血液培養陽性患者の内訳)。

②各治療ガイドライン:当院の感染症における「抗菌薬腎機能別投与法一覧(成人)」を作成しました。その他のガイドラインについても随時作成していく予定です。

③内科外来:内科急患外来業務を週1回(水曜)担当しています。同外来では急患患者対応に加えて、自科・他科からのコンサルテーション業務に携わっています。

3. 診療実績

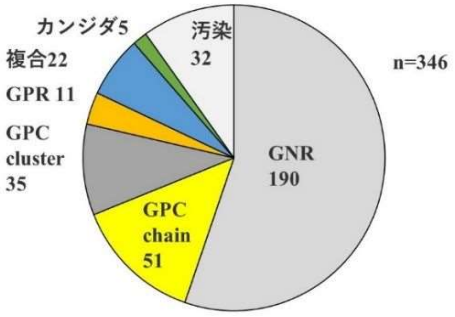
(1)日本臨床検査医学会認定病院(2012年1月1日)

(2)臨床検査科内での症例検討会　週1回
　医局主催の症例検討会　月1回

(3)感染症、臨床検査などに関するコンサルテーション650件超

(4)血液培養陽性患者の内訳(2020年5月～2021年5月)

2020年5月1日～2021年5月26日の血液培養陽性者(n=346/390日=0.89)



合計 346 件/390 日＝0.89 件/日発症.
GNR: グラム陰性桿菌, GPC chain: グラム陽性レンサ球菌, GPC cluster: グラム陽性ブドウ球菌, GPR: グラム陽性桿菌

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(Ⅵ-1頁参照)

演題名
分子・遺伝子学的手法による真菌性副鼻腔症の病理学的検討 The pathological usefulness of the fungal paranasal infection: a molecular and genetic study
膵頭十二指腸切除 pancreato-duodenectomy (PD)後敗血症26例の検討

(2)講演会活動等(Ⅵ-7頁参照)

講演名
新型コロナウイルス感染症

(3)著作・論文、寄稿等(Ⅵ-8頁参照)

題名
肺腎症候群の臨床像を呈したダビガイトランによる抗凝固薬関連腎症の1例
Morphological and genetic identification of fungal genus/species in formalin-fixed, paraffin-embedded specimens obtained from atients with histologically proven fungal infection. Mycoses.
教えて感染症の病理(J－IDEO. 中外医学社)
画像診断道場～実はこうだった(週刊日本医事新報. 日本医事新報社)

5. 次年度に向けて

2021年度に新病院が設立される予定で、なお一層臨床医へ理解しやすいチーム医療に努めて参ります。

病理診断科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	石津 英喜

2. 概要、特徴、特色

難しい症例は東京医科歯科大学より週1回指導をしていただき、慎重に最終診断をしております。内視鏡の病理診断については日本消化器内視鏡学会専門医にも診断に加わっていただき精度の向上に努めております。

細胞診断では日本臨床細胞学会で認定を受けた3名の細胞検査士とともに診断を行っています。特に婦人科細胞診では、産婦人科臨床医でもある細胞診専門医との緊密な協力の下に診断にあたっています。

当院の特徴として病理診断管理加算を算定するために病理診断以外の勤務を制限する体制はとっておりません。病理専門医であっても当直、外来、内視鏡検査などをしながら病理診断管理加算以上の貢献ができる勤務体制や、病理診断をしながら臨床能力も高め続けることのできる病理医の養成に努めています。

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)認定施設

日本病理学会研修認定施設B
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本臨床細胞学会認定施設

(2)症例検討

病理科内での症例検討会 週1回
消化器カンファレンス 週1回
CPC(臨床病理検討会) 医局主催で月1回
乳腺カンファレンス 週1回

4. 診療実績

(1)検体数の推移

	解剖数	生検数	細胞診数
2012年	14	6,989	6,937
2013年	8	7,138	6,982
2014年	9	7,136	6,923
2015年	12	6,147	7,405
2016年	20	5,955	7,503
2017年	8	5,930	6,436
2018年	14	5,551	6,266
2019年	11	5,145	6,236
2020年	5	4,634	6,650

(2)細胞診(Ⅰ-6頁参照)

(3)法人内院所別統計

院所名	2020年	
	検体数	主な病変(疑い含む)
浦和民主診療所	上部消化管生検 90	食道扁平上皮癌1、食道上皮内腫瘍疑い2、胃癌5、胃腺腫8、十二指腸腺腫1
川口診療所	上部消化管生検 19	胃癌2、胃腺腫1
さいわい診療所	上部消化管生検 97	食道扁平上皮癌2、胃癌1、胃腺腫2
埼玉協同病院	3,723	(次葉参照)
大井協同診療所	上部消化管生検 62	食道扁平上皮癌2、胃癌6、胃腺腫5、胃 MALT1
埼玉西協同病院	上部消化管生検 106 下部消化管生検 136 皮膚生検 1	食道扁平上皮癌5、食道上皮内腫瘍疑い1、胃癌7、胃腺腫4、十二指腸癌2 大腸癌15、粘膜内癌(大腸内視鏡切除 4)、 粉瘤 1
所沢診療所	上部消化管生検 15	胃癌1、胃腺腫1
行田協立診療所	上部消化管生検 70	胃癌1、胃腺腫6、十二指腸腺腫1
熊谷生協病院	上部消化管生検 54	胃癌2、胃腺腫3
秩父生協病院	上部消化管生検 47	食道扁平上皮癌3、胃癌1
おおみや生協診療所	上部消化管生検 126	食道扁平上皮癌1、食道上皮内腫瘍疑い2、胃癌7、胃腺腫6
かすかべ生協診療所	上部消化管生検 88	胃癌5、胃腺腫2
合計	4,634	

(4)病理組織検体統計

科・種類	2020年(3,723件)	
	件数	主な病変
上部消化管 内視鏡切除	33	胃癌29(2カ所同時切除3件)、胃腺腫3、 胃過形成ポリープ1
上部消化管 生検	683	食道扁平上皮癌11、食道上皮内腫瘍(疑い含め)4、 胃 group5-69、group4-10、 group3-33、 group2-16、 胃 GIST1、胃悪性リンパ腫2、十二指腸濾胞性リンパ腫1
下部消化管 内視鏡切除+生検	801	内視鏡切除(癌25(SM 浸潤癌1)、直腸カルチノイド1、神経源性腫瘍1 Group5-103、 group4-3、group3-99、直腸カルチノイド-1、顆粒細胞腫 1 広節裂頭条虫1、潰瘍性大腸炎疑い含め46
肝胆膵生検	49	自己免疫性肝炎-2、肝転移(膵癌2、胆道癌1、小細胞癌1)、肝内胆管癌1、胆管癌6、 浸潤性膵管癌5
肺・胸膜生検	59	扁平上皮癌5、腺癌6、小細胞癌5、腺扁平上皮癌1、転移1、多型癌1、中皮腫疑い1
リンパ節	17	悪性リンパ腫(DLBCL6、濾胞性リンパ腫1)、IgG4関連疾患疑い1、転移(小細胞癌、副腎癌)
骨髄生検	37	骨髄腫4、ITP6、骨髄増殖性疾患6、再生不良性貧血2、急性骨髄性白血病2、 慢性リンパ性白血病1(いずれも疑い含む)
婦人科生検	591	頸部生検(上皮内病変144、扁平上皮癌3、頸部腺癌2、外陰癌1、顆粒細胞腫1) 内膜生検(増殖症40、異型増殖症4、腺癌8、乳癌転移1)
婦人科手術	170	円錐切除41 子宮(頸部上皮癌1、体癌4、異型増殖症1)、卵巣(粘液境界悪性1)
外科	乳腺生検 124 手術 518	乳腺針および生検(癌81, 悪性リンパ腫1、境界1)、乳癌手術53 虫垂78、胆嚢良性160、胃癌27、小腸癌1、大腸癌74、大腸リンパ腫1, 直腸癌経肛門切除2、 大腸憩室炎5, 大腸捻転および絞扼6、大腸穿孔2、盲腸脂肪腫1、小腸捻転および絞扼12、 胆嚢癌3、 胆管癌4、膵癌7、膵 IPMA1、膵 MCN1、濾胞性膵炎1、 肝臓(転移8、HCC8、 HCC+ICC1、肝膿瘍1) 肺癌(肺腺癌6、扁平上皮癌3、多型癌1、転移8)、肺良性(肺ブラ切除5、肺の炎症病変2)
皮膚科	372	基底細胞癌12、ボーエン病5、 扁平上皮癌5、皮膚リンパ腫1、 Paget 病2、転移1、 ラングハンス細胞肉腫疑い1
整形外科	33	乳癌骨転移1
耳鼻科	152	悪性リンパ腫9、扁平上皮癌2、甲状腺乳頭癌1、副腎癌転移1、小細胞癌転移 1

(5)解剖例

	臨床診断	病理診断
2020-1	心不全の増悪	新旧の心筋梗塞、肺うっ血／肺水腫および気管支肺炎、急性尿細管壊死
2020-2	間質性肺炎、皮膚筋炎、 右気胸	急速進行性間質性肺炎、肺胞出血、末梢肺動脈に微小血栓形成、右気胸、皮膚筋炎
2020-3	椎体固定術後、CPA 蘇生後	椎体固定術後、CPA 蘇生後
2020-4	膵頭部癌術後、敗血症、 肝膿瘍疑い	膵頭部癌術後、胃癌術後再発なし、敗血症(胆道＋肝嚢胞内感染)、肺のびまん性肺胞 障害(DAD)、ショック肝、急性腎尿細管障害
2020-5	十二指腸癌、十二指腸・ 胆管ステント挿入状態、 PTCD 挿入状態、右膿胸	胆道(胆嚢から下部胆管)および十二指腸に伸展する腺癌、十二指腸・胆管ステント挿入 状態、PTCD 挿入状態、膵臓浸潤、左副腎転移、大動脈周囲リンパ節転移、右背部膿瘍 形成

放射線科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	吉田 英夫
技術部長	松本 俊一
医長	岡崎 百子
非常勤	1名

2. 概要、特徴、特色

常勤医3名および非常勤医師で、CT、MRIを中心とした画像診断、読影を行っています。

画像診断管理料Ⅰ、画像診断管理料Ⅱ、遠隔画像診断Ⅱ等を加算しています。各診療科、各主治医との連携を密に適正な検査および迅速な診断を行っています。

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)定期的に研修医・若い放射線技師に対して、CT画像、MRI画像の診断をはじめ、放射線の基本的なことを教育・研修しています。

(2)著作・論文、寄稿等(VI-8頁参照)

題名
comparison of “C-4‘-th:othymidine、”C-meth:onine and 18F-FGD PET/CT for the detection of active ies:ons of multiple myeloma

健康増進センター

1. 医師体制

役職名等	氏名
健康増進センター長	小池 昭夫
医長	照井 幸雄
非常勤	17名

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

特定健診、保健指導、一般健康診断、事業所健診の他、埼玉県労働局の委託を受けて健康管理手帳所持者のじん肺・石綿健康診断を行っています。

3. 実績

(1)健康診断数(2020年4月～2021年3月)

健康づくり健診	186件
特定健診	2,874件
被ばく者健診	29件
国保ドック	1,833件
医療生協さいたまドック	738件
じん肺健診	120件
事業所健診	9,055件
協会けんぽ	6,039件
上記以外の健康診断	4,545件
合計	25,419件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)講演会活動等(VI-7頁参照)

講演名
コロナウイルス感染症の対応について

5. 次年度に向けて

(1)じん肺・アスベスト外来の充実を図ります。

(2)じん肺・アスベスト関連する会議の定期開催をめざします。